

ホスピスにおけるキリスト教の役割とは ——自分らしい最期を迎えるために——

44 期 3 年

はじめに

本論文のテーマは「ホスピスにおけるキリスト教の役割とは：自分らしい最期を迎えるために」である。この論文を通して、キリスト教信仰を持たない方にも、ホスピスの心のケアにおいてキリスト教が重要な役割を果たしていることを知ってもらいたい。また、人間が「自分らしい最期」を迎えるためには何が必要なのかということを知りたい。私がテーマを「ホスピスとキリスト教」に決定したきっかけ、また初めて死と向き合うきっかけとなったのは、藤井理恵先生・藤井美和先生の『増補改訂版 たましいのケア：病む人のかたわらに』（いのちのことば社、2012）という本に出会ったことだ。私はクリスチャンホームに生まれ育ち、現在でも大阪市にある川口基督教会に通っている。『たましいのケア』はクリスチャンである私に大きな影響と新しい視点を与えてくれた。そしてホスピスとキリスト教について、深く学びたいと思うようになったのである。

1 章 海外のホスピスとキリスト教の関係

ホスピスは起源の段階からキリスト教と密接な関わりがある。最初のホスピスは、親切なもてなしを意味するホスピタリティを基盤に、修道院の一角を用いて行われた。修道院で行われたという点や、無償で手厚く怪我人や病人を介護するという点で、キリスト教とのつながりが見られる。また中世のホスピスでは、不治の病人や臨終の床にある人々を温かくもてなしていた。それは当時のキリスト教の考え方としては、当然のことだったからである。そして近代で登場するシシリー・ソングラス博士は、世界のホスピスを語る上で欠かせない人物である。「ホスピス運動の創始者」とも呼ばれた彼女は、非常に熱心なクリスチャンで、彼女が設立した聖クリストファー・ホスピスもキリスト教の理念に基づいている。このように、ホスピスはキリスト教の考え方とともに発展してきたのである。

2 章 日本のホスピスとキリスト教の関係

日本のホスピスの普及は遅れており、海外に比べると数もまだまだ少数である。そして何より、日本にはキリスト教を基盤としたホスピスが少なく、しかし、キリスト教の理念は、日本にホスピスがつけられた当初から存在した。海外では多く存在するキリスト教という宗教性が、日本人の考え方に合わず、広まることが出来なかったのだ。現在では、ホスピスという施設の存在のみが広まり、キリスト教の考え方は薄れてしまっている。

3 章 死の捉え方

死について学ぶことで、今までに述べたキリスト教の考え方を学ぶことが出来る。死の捉え方は、一般の考え方とキリスト教の考え方で大きく異なっており、一般的には「人生の終わり」と考えられている。しかし、キリスト教の観点から考えると、「死は人生の終わりではなく、永遠の命への出発」と言えるのだ。この考えは、ホスピスでの心のケアに深く関わっている。

4 章 淀川キリスト教病院の現場から学ぶ

淀川キリスト教病院チャプレンである藤井理恵先生へのインタビューや実際の事例により、キリスト教がどのように現場で用いられているかということ、具体的に知ることが出来た。

終章 ホスピスにおけるキリスト教の役割とは：自分らしい最期を迎えるために

キリスト教はホスピスにおいて重要な役割を果たしている。その役割とは、「死に直面している人々の心の痛みを和らげる」ということである。死とは、人間にはどうすることも出来ない限界が訪れるということだ。その限界と向き合わなければならない時、心のケアが必要となる。その心のケアに大切なものは、キリスト教の考え方なのである。「神はどんな時ともにいる」という考え方は、キリスト教信仰の有無に関わらず、限界に向き合う人すべてを励ますことが出来るのだ。つまり、ホスピスの心のケアにおけるキリスト教の役割とは、苦しむ人々の心の痛みを和らげるということである。心の痛みを和らげることで、自分自身が納得し、自分らしい最期を迎えることが出来るのである。

今後の展望

今後の一番の課題は、本論文をクリスチャンでない方にも受け入れられるものにするということである。注意して執筆したものの、やはり偏りが見られるからだ。特に3章はクリスチャン以外に伝わりにくい文章になっている。また、日本のホスピスについての具体的なデータがまだまだ不足していること、全体的に引用・要約が多いことなどが挙げられる。そして挑戦したいフィールドワークは、日本のホスピス・緩和ケアの第一人者と呼ばれる柏木哲夫先生へのインタビューである。

主な引用・参考文献

- ・柏木哲夫『いのちに寄り添う。：ホスピス・緩和ケアの実践』、KKベストセラーズ、2008年
- ・シャーリー・ドゥブレイ『ホスピス運動の創始者：シシリー・ソングラス』、日本看護協会出版会、1997年
- ・柏木哲夫『定本ホスピス・緩和ケア』、青海社、2007年
- 藤井理恵・藤井美和『増補改訂版 たましいのケア：病む人のかたわらに』、いのちのことば社、2012年
- ・『信徒の友』編集部『慰めと希望の葬儀：キリスト教葬儀の考え方と実際』、日本キリスト教団出版局、2010年